科目名	専門演習Ⅰ　　Seminar Ⅰ						
科目担当者	本村 信一　　MOTOMURA Shinichi						
単位数	4	配当年次	２年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	経営学部・経営学科［専門教育科目　演習］ 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	・専門演習Ⅰにおいて、脳波や脳活動計測装置、視線分析装置やドライビングシミュレータなど、研究のために必要となる機器の基礎的な操作方法や基本原理等を習得する。脳波計やNIRS 計といった実機を使用した実験を取り入れるため、必要となる基礎知識を丁寧に説明する。脳科学の基礎についても解説を行い、脳科学に関する研究例や問題点などの事例も取り上げ、理論と実践の両面から考察を行う。また、実践的な授業として、高校との連携による取り組みや、学外に向けたデモンストレーションなど通じて学生の実践力をつける。 ・実験に関しては上位学年（演習Ⅱ・Ⅲ）とも連携して実施したい。						
授業の到達目標	① 座学と実験に基づいた機器や基礎原理に関するプレゼンテーション（年２回）により、研究に関する基礎を理解する。 ② 脳波や脳活動計測装置、視線分析装置やドライビングシミュレータに関する座学（講義形式）と脳波・視線分析実験により、主体的な学習姿勢の醸成と、深く“考える力”の習得を目標とする。						

授業計画・内容

1	ガイダンス	16	視線分析の基礎と機器操作方法①
2	波の基礎を学ぶ①	17	視線分析の基礎と機器操作方法②
3	波の基礎を学ぶ②	18	視線実験の計画・立案①
4	脳と脳計測を学ぶ①	19	視線実験の計画・立案②
5	脳と脳計測を学ぶ②	20	視線実験と分析①
6	脳波計の基礎と操作方法①	21	視線実験と分析②
7	脳波計の基礎と操作方法②	22	脳活動量計の基礎と機器操作方法①
8	脳波実験の計画・立案①	23	脳活動量計の基礎と機器操作方法②
9	脳波実験の計画・立案②	24	脳活動量計を用いた実験の計画・立案①
10	脳波実験①	25	脳活動量計を用いた実験の計画・立案②
11	脳波実験②	26	脳活動量計を用いた実験と分析①
12	脳波実験データの分析①	27	脳活動量計を用いた実験と分析②
13	脳波実験データの分析②	28	プレゼンテーション準備
14	プレゼンテーション準備	29	プレゼンテーション
15	プレゼンテーション	30	総括

授業外学修 (事前学修)	・毎回の授業の範囲をテキスト等の熟読で予習し、理論の内容や専門用語の意味等を調べる(毎週 2 時間程度)。
授業外学修 (事後学修)	・毎回の授業後の内容をテキストや配布されたスライド等で復習し、理論の内容や専門用語の理解を深める(毎週 2 時間程度)。

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応

成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
・脳機能計測機器と簡易な実験に関して、半期１回（年間２回）の発表を行う。	70%	①
・脳波／視線分析実験において積極的な質問、提案、検討結果の発言による専門演習への貢献を行う。	30%	②

成績評価基準

秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合
優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合
良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合
可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合
不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合

教科書	オリジナル資料を使用して演習を行う。
参考文献	竹村和久，ニューロマーケティングと意思決定研究，オペレーションズ・リサーチ，61(7)、pp.429-434(2016)
その他	